2019年9月8日

福音書からのメッセージ

大勢の群衆が一緒について来たが、イエスは振り向いて言われた。
（ルカによる福音書 14 章 25 節）

今日の福音書には、「弟子の条件」という小見出しがつけられています。普通、弟子の条件というと年齢や資格、経験などを思い浮かべますが、イエス様は「弟子ではない条件」を語られます。今日の箇所には、「わたしの弟子ではありえない」という言葉が三度も出てきます。

わたしの弟子ではありえないのは、どのような人なのでしょうか。イエス様はこのように言われます。家族や自分の命を憎まない者、自分の十字架を背負わない者、自分の持ち物を一切捨てない者。

一つ一つ、とても厳しい言葉です。たとえば一つ目の家族や自分の命を憎めという言葉。わたしたちのもつイエス様のイメージとかけ離れているようにも思います。しかしこの「憎む」という言葉は、呪うとか敵対心をむき出しにするということではなく、捨てるとか無視するという意味が強い言葉です。自分の家族や自分の命のことはどうでもよい。憎むし、捨てるし、背を向ける。関係を断った上で、わたしの元に来なさいとイエス様は言われるわけです。

自分の持ち物を一切捨てるという言葉にも目を向けたいと思います。自分の持ち物とは財産のことを指します。その当時、財産といえば、お金だけではなく、建物や土地、奴隷や家畜も含まれていました。その多くは、先祖が残してくれたものです。弟子になりたいのであれば、先祖との関係も断ちなさいと、イエス様は言われるのです。そしてイエス様は、二つのたとえを語られました。

たとえを通してイエス様はこのように

言われます。お金のこと、戦いのこと、そういうときには、腰をすえて考えるのではないか。それであれば、わたしに従うのかどうか、腰を据えて考えないことがあろうかと。

イエス様に従うということは、そんなに簡単なことではないのです。単純に「こっちの方がいい」で済むようなことではありません。確かに今の世の中では、信仰を表明したからといって、迫害を受けたり、殺されたりということはあまり聞きません。でもだからといって、わたしたちが何となく教会に来ているだけだとしたら、イエス様の周りに群がっていた群衆と何ら変わりがないのではないでしょうか。そうではなく、わたしたち一人一人に、決断が求められているのです。

腰をすえて、考えるのです。自分の家族や自分の財産に頼って生きていくのか。それともイエス様に頼り、イエス様にすべてを委ねて歩んで行くのか。イエス様の弟子となること、それは何よりもまずイエス様にのみ信頼を置くことです。自分は自分の力だけで生きているのではない。キリストによって生かされている。そのことを心の底から感じ、歩んで行くことが大切なのです。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町 184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/